



謹んで新年のごあいさつを申し上げます。年頭に当たり皆様のご多幸をお祈り致します。

昨年は全国で多くの災害が発生した年でした。宇和島地域でも7月の西日本豪雨災害による復興は始まったばかりです。病院局関連では吉田病院と介護老人保健施設オレンジ荘の断水で患者様・入所者様はじめご家族並びに職員に多大なご心配、ご不便をお掛け致しました。また、宇和島病院事務職員には24時間体制で宇和島から吉田に水を運搬して頂き医療を続ける事が出来ました事に感謝申し上げます。

その後航空自衛隊、西条市の献身的奉仕で患者様・入所者様が他施設への移動をせずに済みました。また、多くの方々から飲料水をはじめご厚意を頂きました事に感謝致しています。

さらに、病院局職員の中には浸水、土砂流入で被害を受けながらも、私生活を犠牲にして勤務して頂きました。改めて全ての方々に衷心より御礼を申し上げます。

今回の災害で改めて危機管理の重要性を認識し、今後予想される南海トラフ地震に対して設備の見直し、職員の訓練等を積極的に行い、宇和島市の市立病院として地域の医療を守るため職員一同勤めます。そのためには、地域の方々のご理解・ご協力が不可欠です。

今年も引き続きご支援をお願い申し上げます。



市民の皆さん、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。平成最後の年が始まり、間もなく「平成」が終わろうとしていますが、「平成」は色々な災害が起った年でもありました。特に当地域にとっては、昨年の豪雨により吉田地域が甚大な被害を受けました。吉田、三間地区にお住まいの方々は不便な生活を強いられ、いまだに不自由な生活を余儀なくされている状態だと思います。当院においては、病院機能に被害ではなく、整形外科、外科医師全員の待機を命じ、災害対応の準備を行い、負傷者の受け入れに万全を期していました。災害現場からの患者受入に対応し、当院の機能は果たせたのではないかと思っています。

医療器機、設備の整備については、昨年は大きな更新はありませんでしたが、今後は、手術用ロボット「ダヴィンチ」の更新をはじめとし、種々の医療機器の更新を行い、高度医療に対応する体制づくりを整備していきます。また昨年11月7日には姉妹都市である宮城県大崎市の大崎市病院事業と姉妹協定を結び、今後は、人的交流、災害時の相互援助等、歴史のつながりを生かした、実のある姉妹協定にしていきたいと思います。

2019年も思いもよらないことが起こるかもしれません。我々病院スタッフ一同、市民のため、住民のため頑張つていいくつもりです。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

【へき地医療貢献者表彰を受賞して】

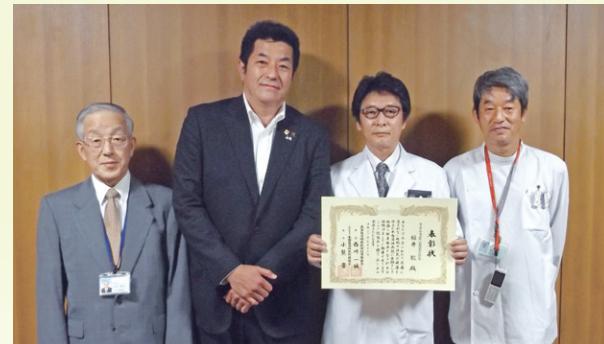
市立宇和島病院放射線科主任科長 福井 聰

この度は、全国自治体病院協議会より、平成30年度へき地医療貢献者表彰を受賞させていただきました。昭和61年に愛媛大学を卒業、平成元年に市立宇和島病院に着任以来、平成という時代を丸々この病院で過ごしたことになります。

この病院に来た当時、放射線科は私を含めて医師2名、放射線技師9名、看護師1名というこじんまりとしたものでした。しかし、診断、治療、核医学、IVRと一応すべての領域が揃っており、また、上司は私が以前勤めていた国立吳病院の先輩で、大変仕事のしやすい環境でした。専門医も放射線診断と放射線治療に分化する前で、地域の最後の砦という自覚のもと、領域を問わず様々なことに挑戦することとなりました。地方では限られたマンパワーの中で、放射線科医として何にでも関与できる総合的な知識や技術が要求されることを痛感したものです。現在では私は放射線治療専門医となり、かなりの時間を放射線治療に費やすこととなっていますが、地方の数少ない医師の専門性にとらわれない仕事ぶりの苦労と面白さを同時に味わわせていただいたこと、大変幸運だったと思っています。

2009年には老朽化に伴う病院新築に際し、放射線科の設計に最初から携わることができたのも大変いい経験でした。現在、放射線科のシステムはアナログだった旧病院とは隔世の感があり、医療従事者の専門性はますます深く、狭くなっています。今、放射線科は医師5名、放射線技師21名、看護師6名、その他も含めると40名近い人々により支えられています。今後、病院職員それぞれが専門性をいかし、地域の人口減少や高齢化の波を乗り越えながらも、ますます地域に必要とされる病院として発展していくことを期待しています。

最後になりますが、今まで何とかやって来られたのも、同僚医師、放射線技師、看護師を始めとする大勢の病院職員の方々のおかげだと心より感謝しています。今後も体力の続く限り地域医療に貢献できることを願いつつ、この一文を締めくくりたいと思います。



左から、市川病院事業管理者、岡原市長、福井主任科長、梶原院長
左から、市川病院事業管理者、岡原市長、福井主任科長、梶原院長

左から、市川病院事業管理者、岡原市長、福井主任科長、梶原院長

【大崎市病院事業と宇和島市病院事業の姉妹協定締結】

宇和島市病院局
経営企画課

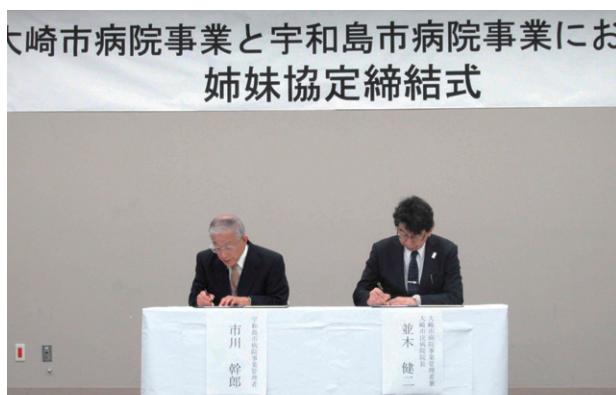
平成30年11月7日、大崎市病院事業と宇和島市病院事業において、 医療分野における相互交流と協力を図るために、姉妹協定を締結しました。

大崎市と宇和島市は、岩出山初代領主伊達宗泰公と宇和島藩初代藩主伊達秀宗公が兄弟という、歴史的に深い縁のもとに、平成11年から姉妹都市として友好を深めてきました。今回は医療分野における情報交換、職員の交流、災害時における医療支援体制を強化すること等を目的として、姉妹協定を締結しました。

締結式にあたっては、大崎市病院事業から、並木健二病院事業管理者様以下4名と、昨年7月の豪雨災害の復興支援に派遣されている2名の職員も同席して頂きました。当病院事業からは市川病院事業管理者、梶原院長以下8名が出席しました。

また、病院開設者である岡原市長にもご出席いただき、「両病院事業がより緊密で良好な関係を構築することにより、市民の生命と健康を守り、更なる市民サービスの向上につながっていくことを期待します。」とのご挨拶をいただきました。

この協定締結を契機に、今後は病院事業間の相互交流、災害発生時における支援体制の強化等を図って参ります。



市川病院事業管理者 並木病院事業管理者





シリーズ 各科紹介|病理診断科

病理診断科科長 松影 昭一

病理診断科の職員構成は、臨床検査技師5名(うち細胞検査士3名)、医師1名です。当科では、顕微鏡的観察を主に用いて疾患の確定診断を行っており、その情報は臨床医が治療方針を決める上で重要な役割を果たしています。臨床医から依頼された生検組織や手術で摘出された病変から作成された組織スライドを病理医が顕微鏡で観察して、病気の種類や広がりなどを診断し、その情報を臨床医に提供しています(そのため病理医はdoctor of doctorsとも呼ばれます)。また、がん検診などで採取された検体のスクリーニングを行う細胞診断、リンパ節や断端組織の腫瘍の有無をみるために手術中に行われる迅速病理診断、不幸にして亡くなった患者の病態を明らかにし、治療の妥当性を検証する病理解剖も行っています。昨年の件数は、組織診断4,676例、細胞診断5,635例、迅速病理診断133例、病理解剖20例でした。

通常の組織標本で診断困難な場合は、免疫染色や特殊染色を追加し検討しますが、それでも不明な場合は著名な病理医にコンサルテーションし、正確に診断するよう努めています。また、各種の外部精度評価に参加し、診断の正確さを保つようにしています。病理解剖症例では、臨床病理検討会を開催し、病態や死因についての詳細な検討を行っており、特に学術的に貴重な症例は学会や論文に発表されています。

近年いろいろな分子標的治療薬が開発され、薬の投与が可能か判断する際に、病理診断の役割が重要となってきています。当科では、治療薬の一つである免疫チェックポイント阻害薬使用の適否について、自動染色装置(ダコautostainer Link 48:愛媛県内に2台しかありません)で免疫染色を行い、迅速に判定しています。

今後も正確で迅速な病理診断を通じて、地域医療に貢献できるよう努めて参ります。



自動染色装置(ダコautostainer Link 48)

【西日本豪雨災害の経験から】

救命救急センター長 根津 賢司

平成30年7月の西日本豪雨災害では、この宇和島圏域でも吉田地区、三間地区を中心に甚大な被害がもたらされました。平成30年12月時点で宇和島市における人的被害状況では、直接死11名、関連死2名、重傷者27名、住家被害状況では、全壊が61棟、半壊が911棟、床上浸水11棟、床下浸水648棟にも及んでいます。それ以外にも大切な農地や工場などの被害、仮設住宅での生活もみられ、現在も復興に向けて地域全体で取り組んでいる状況です。

今回の豪雨災害に関して宇和島市の対応を時系列で振り返ると、平成30年7月5日午前9時14分に大雨警報が発表され、宇和島市災害対策本部が設置されました。7月6日午前4時25分に土砂災害警戒警報、午前4時49分には洪水警報が発表され、午前5時に避難勧告が発令されました。7月7日午前6時28分に記録的短時間大雨情報が発表され、午前7時に市内全域に避難勧告が発令されるとともに、愛媛県においては、災害警戒本部が災害対策本部に移行しました。この7月7日の午前6時から8時までの間に被害の大きかった吉田地区の山間部で一斉に土砂崩れが発生し、民家内に土砂や水が押し寄せる状況が発生しました。また吉田地区、三間地区の水瓶であった浄水場が崩落したため、広い範囲で大切な水というライフラインが断絶してしまいました。この圏域の災害拠点病院である当院には7月7日に肋骨骨折など最優先治療群が3名、非緊急治療群が6名救急搬送されてきました。7月8日午前5時50分に大雨土砂災害特別警報が発表され、午前9時に当院内に宇和島圏域DMAT活動拠点本部が設置されました。

DMAT (Disaster Medical Assistance Team)とは医師、看護師、業務調整員(薬剤師・放射線技師・検査技師・事務員など)で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した現場で急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームです。今回、当院内にDMAT活動拠点本部が設置され、県の調整本部や保健所、自治体と連携しつつ、現地の被災状況、ライフラインの情報収集や周辺医療機関の機能状況の把握を行い、同時にライフラインの確保、避難所、施設などのアセスメントを行なながら、必要な物資の確保、感染管理、衛生管理を行うなど、DMATの活動は多岐にのぼりました。

7月13日にはDMAT活動拠点本部から圏域保健医療調整会議へと活動の中心を行政、自治体に移行し、住民、住居、衛生状況の把握や対応をしていきつつ、仮設住宅、仮設浄水場など復興に向けての流れが進んでいきました。

これまで東日本大震災の経験から地震対策、津波対応の訓練を各自治体、医療機関などで反復してきましたが、今回の豪雨による水害、土砂災害、ライフラインの途絶という現実を目の前にして自然の脅威を感じるとともに、いろいろな災害のパターンに対応が必要であることを痛感しました。今回の経験から得た数々の反省点、改善点を踏み台にして、これから災害(特に南海トラフ地震)に対するしっかりとした意識と対策を築いていくことが責務と考えます。

災害の発生を「防ぐ」ことはできません。しかし、危機感を持ち「備える」ことで被害を最小限に抑えることは可能です。まずは自分の安全、そして家族の安全の確保、それを確認できるSNSなどのネットワークの構築、また避難の指針や備蓄の目安を目標に、まずは「備える」ことを始めましょう。とくに自然災害においては、想定を超えることもあることを肝に銘じ、常に今できる「最善」を尽くすことが大切なのです。



DMAT活動の様子

薬(やく) 立つ話



「風邪をひいたので抗生素を出してください。」診察時にそのようなことを主治医にお願いしていませんか？

現在世界では抗菌薬の不適切な使用により、薬剤耐性菌が増加する一方、新しい抗菌薬の開発が減ってきています。

二〇一五年五月に世界保健機関(WHO)総会で薬物耐性に関する国際行動計画が採択され、本格的に抗菌薬の適切な使用を求められています。これは人間だけの話ではありません。動物等にも使用されている抗菌薬も対象です。

体調が良くなつたからといって、先生に言われた日数分飲まずに途中で止めたりしていませんか？ 実はこれが抗菌薬に効かなくなる菌（耐性菌）を生み出しきつかけになります。一度耐性菌が出来てしまふと、その抗菌薬は使えないなり、より強い抗菌薬を使用しなくてはならなくなります。強い抗菌薬を使つてるとまた強い抗菌薬に強い菌ができる：となるといずれ使える抗菌薬がなくなつてきます。

当院では、そうならないように感染制御部の医師、薬剤師、看護師、検査技師がチームを組み、抗菌薬の適正使用に努めています。

薬局

柑橘香る キーマカレー



β-クリプトキサンチンで生活習慣病予防

温州みかんの皮に多く含まれるβ-クリプトキサンチンには、生活習慣病である脂質異常症と糖尿病の予防効果、さらに発がんを抑制する効果があります。普段は捨ててしまうみかんの皮ですが、健康的に有効活用してみてはいかがでしょうか。

今回は野菜をすりおろしたり、細かくぎざぎざしたりすることでたくさん野菜が摂れるよう工夫しています。キノコも入って食物繊維が豊富です。

〈材料 1人分〉

| | |
|-------|-------|
| 豚ミンチ | 50g |
| エリンギ | 20g |
| 玉ねぎ | 30g |
| 人参 | 30g |
| ピーマン | 20g |
| にんにく | 1g |
| カレー粉 | 3g |
| ケチャップ | 15g |
| コンソメ | 1g |
| カレールー | 7g |
| 水 | 150cc |
| みかんの皮 | 20g |

1人分の栄養量

エネルギー: 220kcal
たんぱく質: 11.3g 塩分: 1.8g
食物繊維: 4.4g

- ① エリンギ、玉ねぎ、ピーマン、みかんの皮をみじん切りにする。人参とにんにくはすりおろす。
- ② 熱したフライパンに豚ミンチとにんにくを入れ、にんにくの香りが立つまで炒める。
- ③ ②に①できざんだエリンギ、玉ねぎ、ピーマン、みかんの皮と、すりおろした人参を加え、しんなりとするまで炒める。
- ④ ③にカレー粉を加えて全体によく混ざるように炒める。
- ⑤ ④にケチャップ、コンソメ、水、カレールーを加え、とろみが付くまで混ぜながら加熱して完成。

平成31年2・3月糖尿病教室予定表

| 日 程 | 演 題 | 担 当 医 師 等 | 医療スタッフの講義 | 担当部署 |
|----------|----------------|------------------|----------------|-------|
| 2月22日(金) | 知つておきたい動脈硬化と検査 | 放射線科 久保田典夫臨床検査技師 | 糖尿病食は健康食 | 食 養 科 |
| 3月 1日(金) | 糖尿病の最近の話題 | 内科 宮内省藏医師 | 合併症が出てしまった時の食事 | 食 養 科 |
| 3月 8日(金) | 糖尿病を治療しよう | 研修医 | 共に学ぼう、糖尿病 | 看 護 部 |
| 3月15日(金) | 1型糖尿病と2型糖尿病 | 薬局 竹内信人薬剤師 | お散歩から始めましょう | リハビリ |

■ 時間: 午後2時から3時まで

■ 場所: 北棟(2階) 講堂

※日程、講義内容は変更になることもあります。

※血糖値測定(無料)は毎回行います。(午後1時30分頃から2時まで)

▼詳しくは、食養科までお問い合わせください。

問い合わせ先

0895-25-1111(内線20010)
市立宇和島病院 食養科

【糖尿病患者会(パール会)】

開催時間: 午後1時35分から1時50分まで

2月22日の担当: 臨床検査科

3月15日の担当: 薬局

※糖尿病療養指導士のスタッフが担当いたします。

発行/市立宇和島病院広報委員会

住所/〒798-8510 宇和島市御殿町1-1

TEL/0895-25-1111 FAX/0895-25-5334